

2014. 12. 25

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2014年 第3四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2014年第3四半期)

2014年7-9月のわが国の景気は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動が影響し、個人消費の失速、住宅投資の落ち込みに加え、期待された輸出が伸び悩んだため低調であった。

このような中、化繊景況は紙おむつ用やエアバッグ用などが堅調だったが、婦人服をはじめとした国内向け衣料用や高水準の輸入が続く自動車タイヤ用などが低調なため、化繊生産は25.1万ト、前年比0.1%増とほぼ前年並みとなった。

国 内

- 1) 衣料用途は、国内向けが盛り上がりには欠けたが、スポーツ・アウトドア用の高密度織物を中心とした輸出ビジネスが好調を継続した。ユニフォーム・ワーキング用は回復基調を辿り、パンストはプレーンタイプが堅調だったが柄物は低調。保温肌着用は飽和感が台頭して伸び悩んだ。ブラックフォーマルはロードサイドショップ向けが堅調だが、主力の百貨店向けが盛り上りに欠けた。インテリア用途は、消費税上げ前の駆け込み需要の反動が顕在化して、カーテン・カーペット用が低調。衛材・生活資材用途は、紙おむつなど衛材用が製品輸出の増加を背景に好調に推移。パップ剤基布用はポリエステル長繊維ニットが増加し、短繊維不織布分野の侵食が進んだ。産業資材用途は、エアバッグ用が好調、基布工場のあるタイ、フィリピンなどへの輸出増が続いた。一方、タイヤコード用は織物および強力糸の輸入増加が目立ち、国内向け出荷は落ち込んだ。土木・建築用は資材、労務費の上昇で工事が予定通りに進まず伸び悩んだ。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年比（以下同じ）0.8%減、化繊1.0%増、紡績2.6%増。在庫指数（期末）は、繊維工業全体が3.7%増、化繊3.7%増、紡績3.3%増。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで22.2億ドル・前年比（以下同じ）1.6%増、一方円ベースでは2,308億円・6.6%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料・4.6%増、糸類・3.3%増、織物類・2.2%減、二次製品他・2.5%増。仕向地別（ドルベース）では、全体の33.1%を占める中国が4.0%減の7.4億ドル、香港（4.7%減）、韓国（16.0%増）、台湾（0.7%増）、アセアン地域はベトナム（3.9%増）、タイ（4.5%増）、インドネシア（8.0%増）・マレーシア（12.8%増）となり、それ以外では米州（9.1%増）、西アジア（6.9%減）、欧州（3.7%増）であった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで114.2億ドル・前年比（以下同じ）6.4%減、一方円ベースでは1兆1,889億円・1.5%減。形態別（ドルベース）では、繊維原料1.5億ドル・3.6%減、糸類3.6億ドル・4.2%増、織物3.7億ドル・2.3%減、二次製品他105.4億ドル・6.9%減。仕出地別では、全体の67.3%を占める中国が11.0%減の76.9億ドル、韓国

(9.1%減)、台湾(4.1%増)、アセアン地域は、ベトナム(14.1%増)、インドネシア(1.1%増)、タイ(2.0%増)、マレーシア(1.6%減)、それ以外では、イタリア(7.9%減)、米国(0.4%増)となった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2012.7-9	2013.7-9	2014.7-9	2013年比(%)	2012年比(%)
輸出	千ドル	2,447,901	2,189,025	2,223,510	1.6	-9.2
計	百万円	192,462	216,574	230,819	6.6	19.9
繊維原料	千ドル	403,180	413,813	432,988	4.6	7.4
糸類	〃	332,546	302,100	312,043	3.3	-6.2
織物類	〃	771,460	661,221	646,416	-2.2	-16.2
二次製品他	〃	940,716	811,892	832,063	2.5	-11.6
輸入	千ドル	12,242,761	12,200,650	11,416,044	-6.4	-6.8
計	百万円	962,064	1,206,705	1,188,938	-1.5	23.6
繊維原料	千ドル	160,729	160,494	154,665	-3.6	-3.8
糸類	〃	347,902	341,640	355,854	4.2	2.3
織物類	〃	366,859	378,113	369,530	-2.3	0.7
二次製品他	〃	11,367,269	11,320,403	10,535,995	-6.9	-7.3
(うち衣類)	〃	(9,807,115)	(9,779,250)	(9,032,664)	-7.6	-7.9
輸出レート	円/ドル	80.1	98.7	102.1	3.5	27.4
輸入レート	円/ドル	80.3	98.7	102.2	3.5	27.3

(出所) 財務省

5) 化繊生産は25万958トンを前年比(以下同じ)0.1%増となり、うちセルロース繊維4万589トンを6.4%減、合繊21万369トンを1.4%増となった。期末(9月末)在庫は9万6,682トンを5.6%増、うちセルロース繊維1万6,777トンを0.4%減、合繊7万9,905トンを6.9%増であった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は16.5万トンを前年比(以下同じ)3.2%増。うち、繊維原料8.3万トンを1.5%増、糸類3.1万トンを5.5%増、織物類(面積ベース)1.44億㎡を0.1%減、二次製品2.7万トンを6.0%増となった。品種別では、レーヨンS21.3%減、ナイロンF20.1%増、ポリエステルF0.1%増、ポリエステルS26.1%減、アクリルS4.9%増、織物類(面積ベース)はナイロンF織物3.7%減、ポリエステルF織物1.4%増、ポリエステルS織物3.5%増であった。

化繊輸入(繊維原料～二次製品)は42.7万トンを前年比3.7%増。繊維原料1.6万トンを9.5%増、糸類5.8万トンを13.2%増、織物類(面積ベース)は1.57億㎡を12.6%増、二次製品32.0万トンを1.0%増、うち衣類17.9万トンを1.5%減となった。品種別では、レーヨンS7.5%減、ナイロンFは32.0%増、ポリエステルF16.6%増、ポリエステルS19.1%増、ポリエステル紡績糸9.8%増、織物類(面積ベース)はポリエステルF織物19.5%増、ポリエステルS織物24.3%増であった。

化学繊維の主要指標

項 目	単位	2012. 7-9	2013. 7-9	2014. 7-9	2013年比 (%)	2012年比 (%)
化繊生産	千トン	243.3	250.8	251.0	0.1	3.1
セルロース	〃	40.7	43.4	40.6	-6.4	-0.3
合 繊	〃	202.6	207.5	210.4	1.4	3.8
化繊在庫	〃	95.3	91.6	96.7	5.6	1.5
セルロース	〃	15.1	16.8	16.8	-0.4	11.4
合 繊	〃	80.2	74.7	79.9	6.9	-0.4
化繊輸出	千トン	152.3	159.4	164.5	3.2	8.0
	100万ドル	1,524.5	1,386.0	1,413.5	2.0	-7.3
	億円	1,198.6	1,371.3	1,467.7	7.0	22.5
繊維原料	千トン	76.3	81.8	83.0	1.5	8.7
糸 類	〃	28.2	29.2	30.8	5.5	9.2
織物類	百万㎡	147.4	144.2	144.1	-0.1	-2.2
二次製品	千トン	23.7	25.1	26.6	6.0	12.5
化繊輸入	千トン	390.6	411.5	426.7	3.7	9.2
	100万ドル	5,988.8	5,905.1	5,661.7	-4.1	-5.5
	億円	4,704.7	5,839.8	5,904.4	1.1	25.5
繊維原料	千トン	13.3	14.7	16.1	9.5	20.9
糸 類	〃	48.9	51.5	58.3	13.2	19.1
織物類	百万㎡	146.3	139.4	156.9	12.6	7.2
二次製品他	千トン	303.3	316.8	319.8	1.0	5.4
(うち衣 類)	〃	(174.1)	(181.6)	(178.9)	-1.5	2.7

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

<ポリエステルF>

2014年第3四半期のポリエステルフィラメントの生産は3万3,986トン・前年同期比9.4%の減、9月末在庫は1万2,028トン・前年同月比19.6%の大幅減。

衣料用：輸出ビジネスは円安定着を背景にアウトドア・ダウンウェア用など高密度織物の輸出が好調だったが、国内マーケットは総じて低調。ブラックフォーマルはロードサイドショップ向けが堅調だが、主力の百貨店・専門店向けは低調。遊泳用水着は2014年夏の店頭販売が不振だったため、15年シーズン向けが懸念される。「ヨガ」用のニットはブームに支えられて国内・輸出ともに好調が続く。

非衣料：タイヤコード用は中国、ベトナム、韓国からの高水準の織物輸入が続き、強力糸の輸入も大幅増。カーシートは自工メーカーの新車受注残がなくなり減速。土木・建築用は資材、労務費の値上がりで盛り上がり欠けた。パンプ剤基布向けにポリエステルニットの増加が目立った。

フィラメントの輸出は4,369トン・前年比0.1%増、輸入は3万3,596トン・16.6%増。

<ポリエステルS>

2014年第3四半期のポリエステルステーブルの生産は3万8,016トンを前年同期比0.6%増、9月末在庫は2万1,460トンを前年同月比9.6%増。

紡績用：ユニフォーム・ワーキング用は製品在庫の減少が進み、備蓄生産の動きが出てきた。資材用では帆布向けが比較的タイトな状況が続いた。

製綿用：原綿出荷は盛り上がり欠ける中、韓国・中国からの原綿輸入の大幅増が続く。

不織布用：衛材向けは好調な紙おむつ製品の生産増への対応のため、オレフィンメーカーおよび不織布メーカーの増設の動きがあった。生活資材向けはспанレースの制汗シート向けが好調、パップ剤基布用はポリエステルニット商品との競合で苦戦。車両資材向けは消費増税前の受注残対応で6月迄は前年を上回ったが、7月以降は失速。湿式不織布は水処理関係を中心に堅調に推移し、やや陰りが見え始めたが中国での浄水器用が健闘した。

ステーブルの輸出は7,062トン・前年比26.1%減、輸入は8,082トン・19.1%増。

<ナイロンF>

2014年第3四半期のナイロンフィラメントの生産は2万5,364トンを前年同期比0.6%増、9月末在庫は9,884トンを前年同月比13.3%減。

衣料用：パンストは天候不順が響いて店頭販売が不調だったため、糸の出荷が影響を受けた。ハイテンションニットの国内向けは順調に推移し、中国向け輸出も堅調。高密度織物はアウトドア用中心に米国向けが好調だが、景気回復が遅れる欧州向けは伸び悩んだ。

非衣料用：タイヤコード用ナイロン消費量の減少が続く中、航空機タイヤ向けは数量が少ないが堅調、タイヤコード織物の輸入が落ち着いたが強力糸の輸入は大幅増。エアバッグ向けはタイ、フィリピン、中国、韓国への糸輸出の好調が続く。ホーサー（船舶係留用ロープ）向けは新造船の受注増加を背景に底打ちしたが、本格的な回復はまだ先になりそう。タイルカーペット向けは消費税上げ後も受注残を背景に順調だったが、8月中旬以降失速した。

フィラメントの輸出は10,894トン・前年比20.1%増、輸入は8,422トン・32.0%増。

<アクリルS>

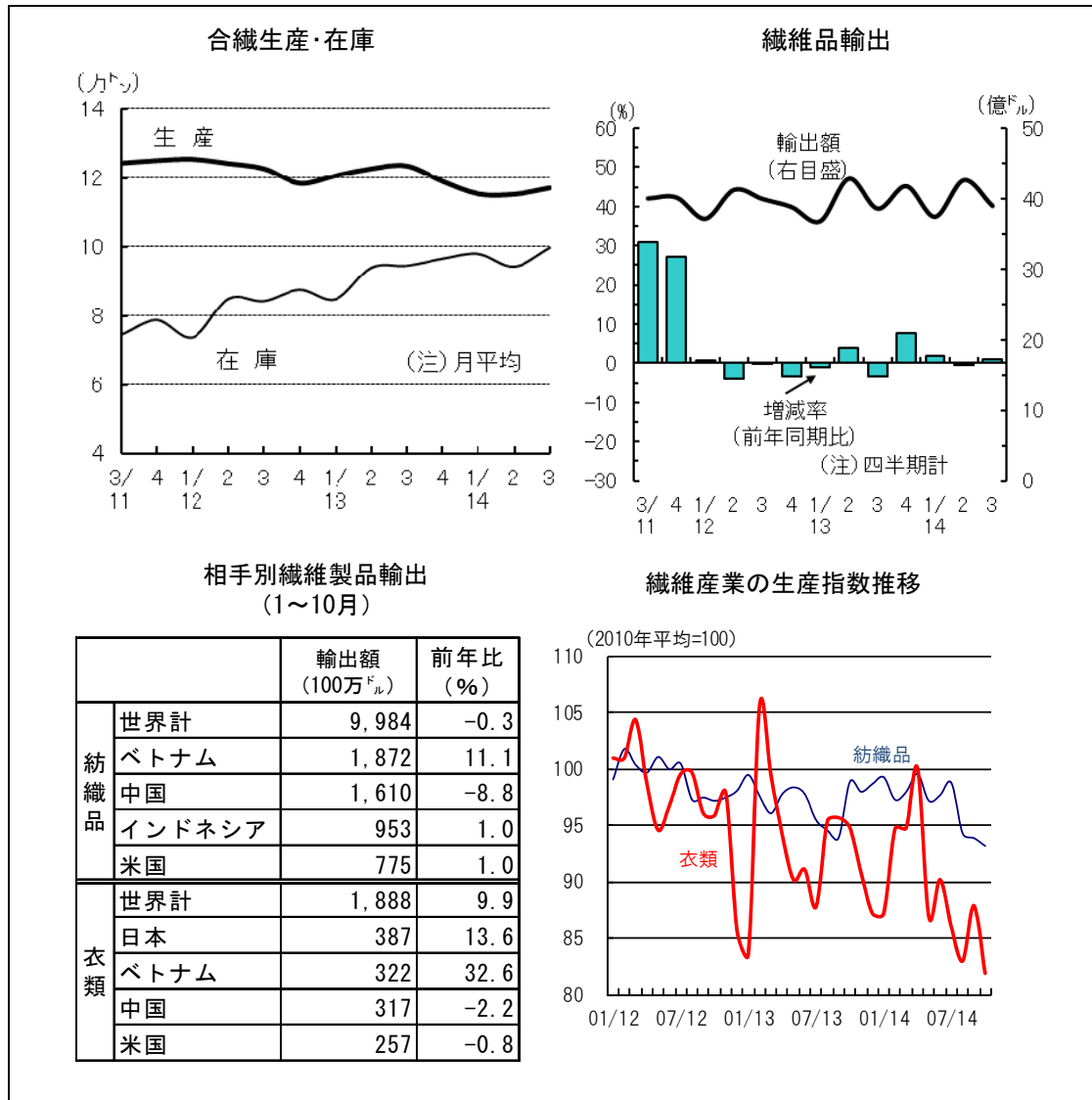
2014年第3四半期のアクリルステーブルの生産は3万9,194トンを前年同期比3.8%増、9月末の在庫は1万2,252トンを前年同月比33.3%の大幅増。

衣料用：保温肌着およびその派生品は飽和感が台頭する中、リピート需要が中心となり2014年シーズン向けのステーブルの出荷が減少した。

建寝装用：激減した毛布用は、泉大津産地と共同で国内および中国向け高級品の取組みが復活への課題、カーペット用は下げ止まりから定位安定へ。

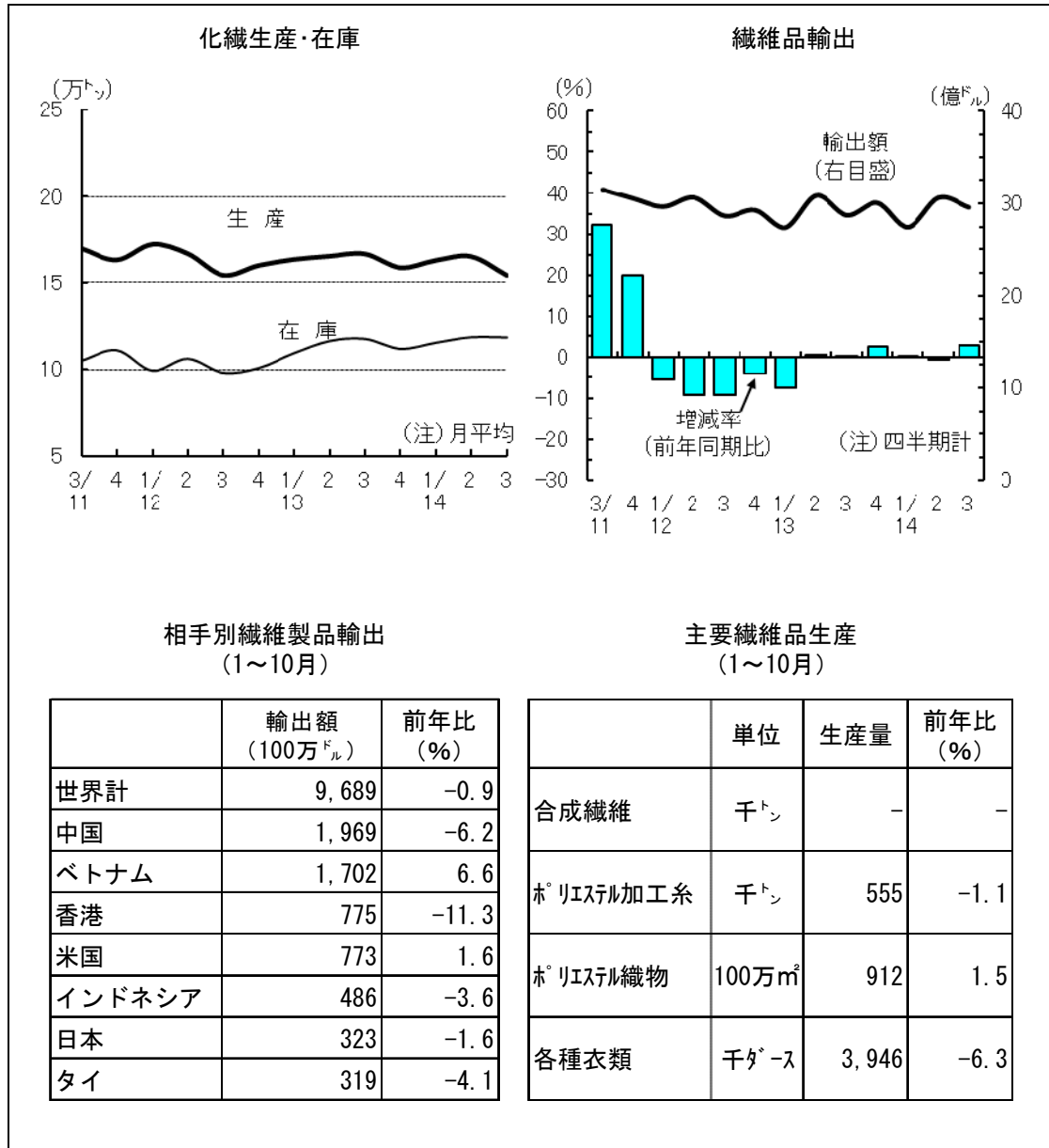
輸出：最大仕向地の中国は2万320トンを前年同期比5.6%減と3四半期連続前年を下回った。これは、2013年シーズンの中国内需フェイクファー用が暖冬の影響などで生地・製品在庫が増加したことが要因と思われる。2014年シーズンの欧米向けの再輸出用も不調に終わり、特に米国では風合いよりも価格を重視する傾向が強いため、安価な中国、韓国、台湾品との競合が激化した。

1. 韓国



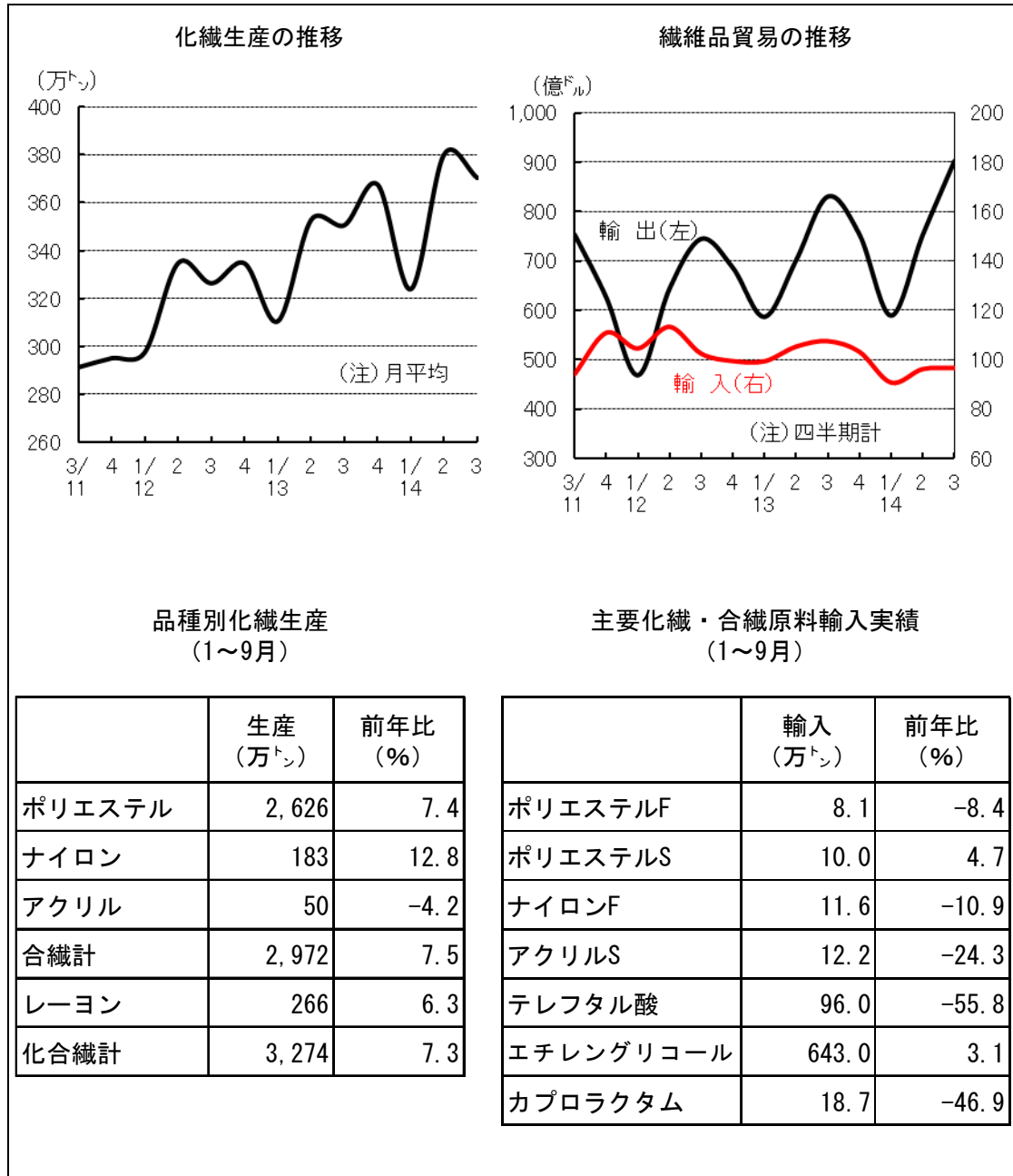
- ◆合繊生産は減少、繊維品輸出は微増となったが、繊維業況は全般的に低調であった。
- ◆第3四半期の合繊生産は前年同期比5%減の35.2万トン（8-9月実績から推定）と3期連続で前年実績割れとなった。1~8月の生産を品種別にみると、ナイロンF、ポリエステルFは、内需、輸出とも不振の影響から2桁減となっている。
- ◆第3四半期の繊維品輸出は1.0%増の39.0億ドルとなった。1~10月の繊維品輸出を相手別にみると、ベトナム向けが繊維品、衣類とも高い伸びが続いている一方、中国向けはともに減少している。また、第3四半期の繊維品輸入は14.6%増の44.4億ドル、入超に転じている。なお、11月に中国とのFTA交渉が妥結した。
- ◆直近（2014年10月）の繊維品の生産指数をみると、繊維産業は5.8%減、衣類産業は13.6%減とともに下落している。

2. 台 湾



- ◆化繊生産は減少、繊維品輸出は微増となった。
- ◆第3四半期の化繊生産は前年同期比7.4%減の46.4万トン、4期連続の前年実績割れとなった。主要合繊4品種は、ナイロンFが5.0%減、ポリエステルFが10.8%減、同Sが5.5%減、アクリルSが10.5%減といずれも前年実績割れ。
- ◆第3四半期の繊維品輸出は3.0%増の29.6億ドルとなった。1～10月の繊維品輸出を上位相手別にみると、中国、香港向けが減少に対して、ベトナム向けが続伸となった。一方、繊維品輸入は5.8%増の9.3億ドルとなった。
- ◆1～10月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は1.1%減、ポリエステル織物は1.5%増、衣類は6.3%減となった。

3. 中 国



- ◆ 繊維生産は引続き拡大しているが、その伸びは1桁に鈍化した。一方、繊維品輸出は堅調が続いている。
- ◆ 1~9月の化繊生産は前年同月比7.3%増の3,274万トとなった。中国の化繊生産は、2013年以降7期連続で1桁台の伸びが定着している。主力のポリエステルは2,626万トで7.4%増となった。
- ◆ 第3四半期の繊維品輸出は前年同期比8.7%増の902.5億ドルとなった。輸入は10.1%減の96.6億ドルとなった。

- ◆1～9月の合繊原料輸入は、テレフタル酸、カプロラクタムが国内生産の増加もあって前年実績から大幅に減少となったが、エチレングリコールは3.1%増となった。

相手別繊維製品輸出 (1～10月)			繊維業界の主要指標 (1～10月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	2,485	6.4	企業数	万社	3.8	-
アジア計	1,086	0.5	赤字企業数	万社	0.5	7.5
日本	206	-9.2	主要業務収入	億元	53,559	7.6
香港	137	-14.6	うち化繊産業	億元	5,912	4.5
韓国	67	22.5	利潤総額	億元	2,631	9.6
アセアン	291	5.6	うち化繊産業	億元	185	14.4
EU	493	15.8	繊維産業実際投資	億元	8,270	15.6
米国	376	8.1	うち化繊産業	億元	926	4.8

社会小売消費総額 (1～10月)				繊維関連物消費者物価指数 (1～10月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同期比 (%)
商品売上総額	億元	213,118	12.0	消費者価格指数・全製品	2.1
うち繊維品等	億元	9,835	10.6	消費者価格指数・衣類等	2.4

- ◆1～10月の相手別の繊維製品輸出は、EU向けは15.8%増、米国向けは8.1%増とともに堅調が続いている。アジア向けは全体で微増あったが、日本、香港向けは減少となった。また、これまで大幅増のアセアン向けは1桁台の伸びに鈍化している。
- ◆1～9月の繊維産業の主要指標は、いずれも前年実績をクリアしているが、その伸びは鈍化がみられる。主要業務収入は7.6%増、利潤総額は9.6%増となった。繊維産業の投資は、中部、西部地区を中心に活発な状況が続き15.6%増となった。但し、供給過剰感がみられる化繊産業は4.8%増と大幅に鈍化している。
- ◆衣料用内需は引続き堅調に推移した。1～9月の繊維品に関する社会小売消費総額は前年同期比10.6%増と輸出を上回る伸びとなった。衣類等の消費者物価指数は前年同期比2.4%上昇した。

合繊4品種需要実績

(2014年7～9月)

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2014年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,695	104.1	99.5
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	47,791	102.1	102.8
	計	65,486 (33,596)	102.7 (106.3)	101.9 (116.6)
輸出 (原糸、加工糸)		1,970	112.1	103.5
需要計		67,456	102.9	101.9
在庫		12,028	101.9	80.4

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2014年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	4,858	107.7	109.9
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	33,261	100.4	102.0
	計 (輸入)	38,121 (8,082)	104.3 (100.5)	106.0 (119.1)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		3,942	124.3	72.1
需要計		42,063	105.9	101.5
在庫		21,460	108.8	109.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2014年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	9,093	101.0	94.3
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,120	98.8	109.5
	計	25,213 (8,422)	99.5 (106.3)	103.5 (132.0)
輸出 (原糸、加工糸)		7,551	100.9	119.1
需要計		32,764	99.9	106.7
在庫		9,884	113.7	86.7

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2014年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	3,502	59.1	67.1
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,825	91.3	108.9
	計	5,327 (145)	67.3 (74.0)	77.3 (48.0)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		31,951	111.8	99.1
需要計		37,278	102.1	95.3
在庫		12,252	123.1	133.3

(注)国内需要の()内数値は輸入量